

鎌倉光明寺の御詠歌（回顧調）

曾我晃也作曲

♩ = 50ぐらい



○ × × ○ × × ○ × × ○ × ×
 (詠頭) おし えーお く (斉唱) おし えーお く



○ × × ○ × × ○ × ○ × ○ × ×
 このこと - の は の ゆく すえ を



⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗ ⊗
 おもいわすれず おもいわすれず わ れ - を



⊗ ○ × × ○ × ○ × ○ × × ×
 - と ぶ ら - - え -

相模の国 大本山光明寺

教へおく この言の葉の 行く末を 思ひ忘れず われをとぶらへ

(浄土宗第三祖記主禅師然阿良忠上人御作)

このお歌は、上人が71歳の時に書かれた『記主禅師一枚起請文』の結びのお歌です。その内容は「二祖様よりお伝えいただいた念死念仏の教えは、これ以上大切な教えはありません。念死とは絶対に逃れられない死を目前に置いて思い、念仏とは絶対頼みとなる本願を信じて南無阿弥陀仏と申すことである。また、命終のその瞬間がお浄土に生まれる時とはつきり心に決しておくことが大切です。この外に別の奥深いことはないことを三宝に誓います」と示され、この御歌を記し、手印を押されています。

大意 念死念仏のこの上ない大切な言葉のいわれを教えておきます。この二念を決して忘れることなく、自分の身をよくよく見つめて真剣に念仏してください。

語句 ゆく末：来歴。素姓。 訪(とぶら)う：尋ね求める。詮索する。

ポイント注意

- 半拍休止からは力強く立ち上がる。
- 「おもいわすれず」はリズムカルに。